

# スペイン語の前置詞句 dentro de の時間表現について

三 好 準 之 助

## 要 旨

スペイン語の前置詞句 *dentro de* には、空間の意味の名詞（句）を伴うとき「～の中で、～の範囲内で」の意味を表現するが、時間（期間）の意味の名詞（句）が続くと「～の期間のなかで」という期間内の意味と、「～だったら、～のあとに」という終端時点の意味を表現する。もともと *dentro* という副詞は空間やそれに準じる概念の内部を指しているから、*dentro de* になって空間の名詞句に前置されると「（その空間）のなかで」という意味を表現するのは合理的に理解される。しかし時間の語句を従えると、その時間内を指したり期間の終端時点を指したりする。なぜそのような2種類の時間指示が可能なのであろうか。本稿はそのような *dentro de* に関する疑問に関して筆者なりの仮定的な解答を考察し、報告するものである。そして、期間の計測起点の指示方法（眼前指示か文脈指示か）、期間内の表示、終端時点の表示、スペインの中世と現代との用法の違い、現代のスペインとスペイン系アメリカとの用法の違いなどに言及する。

キーワード：*dentro de*、期間、終端時点、指示方法、規範文法

## 1. dentro de ～ の意味

まず、この前置詞句の意味を辞書によって確かめてみよう。

### 1.1. スペイン王立アカデミアの辞書：DRAE（2014）

まず、スペイン語の通時的・共時的な情報をまとめあげていて規範的な権威を帯びているアカデミアの辞書によれば、スペイン語の *dentro* ということばは、現実や想像上の境界線や空間の内部を指す場所の副詞である（**dentro.** (del lat. *deintro*). adv. 1. En la parte interior de un espacio o término real o imaginario)。このことばは *dentro de* という前置詞句としても使われていて、それには2種類の語義が提示されている。ひとつは時間関係の意味で「現在から計測された期間の終点を指すのに使用される」（終端時点の表示）（～ **de.** loc. prepos. U. para indicar el término de un período de tiempo visto desde la perspectiva del presente）とあり、*dentro de dos meses* 「（現在から）2ヵ月後に」という例が出されている。もうひとつは空間関係の意味で「実際の、あるいは想像上のスペースの内部において」（2. En el interior de un espacio real o imaginario）であり、*dentro de un cajón* 「引き出しのなかに」などが例示されているが、時間関係の例文は出されていない。

空間の内部を指す副詞が、前置詞句 *dentro de* になって時間表現をするとき、発話時を起点

として計測される期間の終端時点を指していることがわかる。ほかのスペイン語辞書ではどのように解説されているのであろうか。

## 1.2. Cuervo の辞書

R. J. Cuervo の辞書は広範な通時的用例を提示する大部の古典的資料である。その辞書の dentro の記述では、空間表現の次に、時間表現での定義が2種類提示されている (1994: 899)。ひとつは「ふたつの期日で区切られた空間において、ある期間の時点や時期において」(En el espacio limitado por dos fechas, en un punto ó época de cierto espacio de tiempo) であり、もうひとつは「ある期間が終わる前に、あるいはある期限が切れる前に」(Antes de terminar cierto espacio de tiempo ó de expirar cierto plazo) である。表現方法は異なるが、前者が期間内の表現、後者が終端時点の表現に相当する。

## 1.3. 現代スペイン語の辞書

では、スペインの現代の辞書ではどのような説明がなされているのであろうか。

### 1.3.1. 辞書の SALAMANCA (1996)

この辞書では、場所の副詞とされる dentro の第1義に「場所や空間の内部において」(En el interior de un lugar o espacio) が挙げられていて、その例文のひとつが El dinero está dentro de la caja. 「お金はその箱の中に入っている」である。空間関係で dentro de という前置詞句が使われているが、それとは別に、熟語としての dentro de が設定されていて、そこには2種類の時間関係の意味が示されている。ひとつの語義は「指定されている期間の中で」(期間内) (1. En la época o periodo de tiempo que se indica) で、例文は Dentro del Barroco destacan numerosos autores de teatro. 「バロックの時代には多数の演劇作家が目立っている」であり、2番目の語義は「指定されている期間が終了する、まさにその瞬間において」(終端時点) (2. En el preciso momento en que se cumple el periodo que se indica) で、例文は Volveré dentro de un mes. 「私はひと月後に戻ってくるつもりだ」である。

この dentro de の2番目の語義が DRAE の「現在から計測された期間の終点を指すのに使用される」(終端時点) という語義に相当する。しかし DRAE が「現在から計測された期間」としているところが、SALAMANCA では「指定されている期間」になっている。とはいえ、dentro de の時間関係の語義は期間内と終端時点の2種類であることになる。

### 1.3.2. 辞書の CLAVE (1997)

現代スペイン語の辞書 CLAVE には簡潔な説明が見られる。前置詞句 dentro de が時間表現を従えるとき、その期間内とその終端時点という、上記の2種類の意味は、また別の表現方法

で定義されている。「*dentro de* は、時間を指す表現に先行して、その経過時間の中に、あるいはその期間が終わったとき」(1 *dentro de; seguido de una expresión que indica tiempo, durante su transcurso o una vez terminado ese período*) である。

### 1.3.3. M. Seco *et al.* の辞書 (1999)

この20世紀後半のスペインのスペイン語に関する辞書では、*dentro de* という前置詞句には3種類の語義が与えられている。ひとつは時間関係の語義でなく、「～に従って」(Con arreglo a o con sumisión a) であるが、残りのふたつが時間関係である。そのひとつは「期間内に」(4. En el plazo de), もうひとつは「(時間表現の名詞を伴って表現される)～後に」(5. al cabo de. *Seguido de un sust que expresa tiempo*) であり、終端時点のことである。時間測定の基準時には言及されていないが、*dentro de* の時間関係の語義は期間内と終端時点の2種類であることは、上記の複数の辞書の記述と同じである。

## 2. *dentro de* の使い方と使用実態

では、この前置詞句の使い方は、文法書ではどのように説明されているのであろうか。そして、実際に、どのように使われているのであろうか。その説明と使用実態を調べてみよう。

### 2.1. 文法書の解説

まず、いくつかの文法書では *dentro de* の使い方がどのように解説されているのだろうか。

#### 2.1.1. コミュニケーション文法での *dentro de*

Matte Bon のスペイン語・コミュニケーション文法は発話文を扱っているが、そこには、未来の時点 (fecha) の指定方法が示されている。この未来 (futuro) には2種類あって、発話時から見た未来の時点と過去の一時点から見た未来の一時点である。当然のことだが、いずれの場合も確実な日付や時間がわかっているときには、問題の未来の時点は具体的に計測される日付や時期で示されることになる。

##### 2.1.1.1. 発話時から見た未来の時点

発話時から見た未来の時点の指し方では、その未来時の日付 (fecha) がわからないときや、確実な日付を言いたくないときには、「*dentro de* + 時間の量的表現 (expresión de cantidad de tiempo)」という語連鎖で表現する、ということである (Matte Bon 2005: II, 174)。例文は — ¿Para cuándo puede estar? 「いつごろ居られるのですか」 — Llámame dentro de una semana. 「1週間後に電話してください」である<sup>1)</sup>。

### 2.1.1.2. 過去時から見た未来の時点

他方、過去の一時点から見た未来の時点の指し方では、その未来時の日付を言いたくなくなったり、それがわからなかったりするときには「時間の量的表現 + después」とか「al cabo de + 時間の量的な表現」（ともに終端時点の指示で「～後に」の意味）という語連結で表現する、ということである（Matte Bon 2005: II, 176）。例文は — Nos conocimos en un congreso. Y al cabo de un año ya estábamos viviendo juntos. 「私たちは会議で知り合った。そして1年後にはもう、一緒に住んでいた」である。引用の個所には挙げられていないが、この例文の後半は Y un año después ya ... と表現できるはずである<sup>2)</sup>。

### 2.1.2. García Fernández (1999) の説明

1999年に現代スペイン語に関する記述文法の大著が出版された。その第48章は Luis García Fernández の「時間表現の副詞的補語。時間の従属表現」Los complementos adverbiales temporales. La subordinación temporal である。

#### 2.1.2.1. 時間表現の副詞的補語

García Fernández は時間表現の副詞的補語を3種類の基準との関連によって分類している。時間の文化的分割との関連<sup>3)</sup>、アスペクトとの関連、文法時制との関連である（1999: 3132）。dentro de がかわるのはアスペクトとの関連と文法時制との関連においてである。

#### 2.1.2.2. そのアスペクトとの関連

時間表現の副詞的補語はアスペクトとの関連という点で以下の4種類に分けられる。時間継続表示の補語、時間的位置表示の補語、時間的的局面表示の補語、頻度表示の補語である。前置詞句 dentro de がかわるのは2番目の時間的位置表示の補語であるが、この補語は次のような2種類に分類される。期間表示の補語と時点表示の補語である（1999: 3134-35）。

- A. 期間表示の補語 : ayer 「昨日」, el año pasado 「去年」, esta semana 「今週」, durante el verano 「夏のあいだ」, últimamente 「最近」, estos días 「この頃」。
- B. 時点表示の補語 : a las tres 「3時に」, en ese momento 「そのとき」, a medianoche 「真夜中に」, dentro de poco 「すぐに、間もなく」, hace tres semanas 「3週間前に」。

dentro de の用例は dentro de poco という熟語であるが、以上の説明から、この前置詞句が時間の流れのなかの特定の点的時間（時点）を指すことがわかる。

#### 2.1.2.3. その文法時制との関連

また、時間表現の副詞的補語は動詞の時制との関連で次のような3種類に分類される。①発話時に言及される補語、②発話時とは異なる時点に言及される補語、③それら2者に共通する補語である。①はダイクシスの補語、②はアナフォラの補語、③はダイクシス・アナフォラの補語とも呼ばれる（1999: 3160-61）。以下ではダイクシスは「眼前指示」、アナフォラは、厳密には前方照応の文脈指示であるが、本稿では「文脈指示」と呼ぶことにする。

①眼前指示的補語：hace tres días 「3日前」、ayer 「昨日」、mañana 「明日」、dentro de un rato 「少ししたら」。

②文脈指示的補語：tres días antes 「(その) 3日前」、la víspera 「(その) 前日・前夜」、al día siguiente 「(その) 次の日」、al rato 「(その) 少しあとで」。

③眼前指示・文脈指示的補語：antes 「前に」、después 「後で」、recientemente 「最近」。

前置詞句の dentro de は①の眼前指示の補語に属している。すなわち、発話者が、発話時を起点にして時間を計測し、発話時から見た未来の点的な時を指すということになる。

### 2.1.3. 『スペイン語新文法』(NGLE, 2009) の説明

NGLE は dentro de に関して次のようなデータを提供してくれている。

#### 2.1.3.1. 時間表現の dentro de の時間計測の起点について

NGLE (17.1n)<sup>4)</sup> は、問題の時間を計るときにの起点について、「dentro de (や形容詞 próximo 「つぎの」) で構成された表現は常に発話時から計測されるが、al cabo de (や形容詞 siguiente 「その次の」) で構成された表現はそうではなく、談話に導入された別の時点から計測される」<sup>5)</sup> と断っている。dentro de で表現される期間は発話時がその計測起点であり、al cabo de の場合には文脈上の一時点がその計測起点であることになる。

#### 2.1.3.2. 時間表現の付加詞の3種類の指示方法

NGLE (24.4f) は、García Fernández とは異なる視点から dentro de を扱っている。すなわち現代スペイン語における「時間的位置付け表現の付加詞」adjuntos de localización temporal (前置詞、名詞、副詞など) のひとつとして dentro de を扱っている。そしてその指示の方法に注目すると3種類に分けられると指摘している。計測起点が発話時になっている付加詞(眼前指示固定：anclaje deíctico)、計測起点が発話時以外の一時点である付加詞(文脈指示固定：anclaje anafórico)、そして計測起点が自由に設定できる付加詞(可変指示：anclaje variable)である。

##### 2.1.3.2.1. 眼前指示固定の付加詞

NGLE の次の項 (24.4g) では、眼前指示固定の付加詞がいくつか紹介されている。mañana 「明日」、el próximo verano 「この次の夏」、el mes que viene 「来月」、「hace + 量的な名詞句 (grupo nominal cuantificativo)」、 「dentro de + 量的な名詞句」(たとえば dentro de un rato 「少ししたら」、dentro de tres años 「3年後に」) などである。

##### 2.1.3.2.2. 文脈指示固定の付加詞

NGLE (24.4h) には文脈指示固定の付加詞が紹介されている。al día siguiente 「(文脈でわかる一時点の) 次の日」、dos semanas antes 「(文脈でわかる一時点の) 2週間前」、al cabo de tres meses 「(文脈でわかる一時点の) 3ヶ月後」、la víspera 「(文脈でわかる一時点の) 前日・前夜」、 「hacia + 量的な名詞句」、 などである<sup>6)</sup>。

### 2.1.3.2.3. 可変指示の付加詞

その次の段落である NGLE (24.4i) では、適切な文脈があれば自由に指示できる付加詞が多いとして、そのひとつの例に「en el plazo de + 数量名詞句」が挙げられている。この前置詞句は「～という期間のうちに」(期間内の指示)とも「～という期間の後に」(終端時点の指示)とも解釈されるが、「時間的位置付け表現の付加詞」が問題にされているし、眼前指示固定の dentro de と文脈指示固定の al cabo de と並べて紹介されているからには、終端時点の指示のことであろう。

### 2.1.4. 眼前指示と文脈指示

以上の指摘から、時間指示の表現のなかで、ある一時点から計測した経過後の一時点を指すとき、話者が発話時を基準に計測する眼前指示では dentro de が使われ、文脈上の一時点から計測される文脈指示では ~ después や al cabo de ~ が使われる、と説明されていることがわかる。

そして眼前指示の計測で未来の一時点を指すときには、そこで使われる時間の量的表現のための名詞句は、Matte Bon は “expresión de cantidad de tiempo” (cf. 2.1.1.1.) と説明し、NGLE は “grupo nominal cuantificativo” (cf. 2.1.3.2.1.) と説明している。そこには名詞句の定・不定の指示がない。指示がないということは、不定名詞句のことを指していると判断される<sup>7)</sup>。

## 2.2. 現代スペイン語での dentro de の使用実態

それでは、この前置詞句は、実際どのように使われているのであろうか。現代語コーパスとアンケートによって、その実態を探ってみた。

### 2.2.1. 言語コーパス CREA での調査結果

アカデミアの現代スペイン語のコーパスである CREA によって、現代スペインにおける dentro de の使い方を調べてみた。

#### 2.2.1.1. フィクションでの使用

まず、1995年から2000年までの書籍・フィクションで検索してみると、この前置詞句は26の資料で161回使われている。その内の35例(2割強)で時間の数量的表現を伴っているが、その名詞句はすべて不定の表現である。

発話時起点(眼前指示)で計る未来の一時点(終端時点)を指す使い方なら、dentro de の付加詞を伴う文の述語の時制は現在か未来であろう。35例の内の30例では、述語の時制は現在か未来である。そして残りの5例は過去(1)、過去完了(1)、過去未来(2)、過去未来完了(1)である。過去時の述語に伴う dentro de の付加詞なら、時間計測は文脈指示であり、その名詞句が不定の概念を表現していても計測起点は文脈上の一時点になる。以下に問題の5例を

紹介する（本稿では用例に筆者の下線を加えている）。

1. le anunció grandes acontecimientos para el futuro: un viaje largo, tal vez a París o a Berlín, dentro de cuatro o cinco años, el tiempo que un hombre necesita para preparar unas oposiciones a cátedra; 「将来の大きな出来事を予告した。男が教授職の採用試験を準備するのに必要な時間である4・5年後に（4・5年の間に）行う、おそらくパリかベルリンへの長い旅である」<sup>8)</sup>
2. Y sabía cómo conseguirlo. A lo mejor Juan podría parecerse un poco a Joe dentro de unos años. En América todos los extranjeros cambian con el tiempo. 「もうそれを達成する方法はわかっていた。おそらくホアンは数年後に（数年の間に）、ジョーに少しは似た者になるかもしれない。アメリカでは、外国人はみな、時と共に変化する」<sup>9)</sup>
3. Se llamaba Tony Douglas. Desde hacía siete años estaba encerrado en la prisión de Richmond. Su ejecución se había fijado para dentro de dos semanas. 「彼の名前はトニー・ダグラスだった。7年前からリッチモンドの牢獄に幽閉されていた。彼の死刑執行は2週間後に行うと定められていた」
4. Un día apareció el hijo [...]. Este chico también sería podólogo dentro de unos años. 「ある日、その息子が現れた。この若者もまた、数年後に（数年の間に）足病医になるのだろう」
5. ya esbozaba desde un lado del altar una beatífica sonrisa que él devolvió pensando que dentro de dos horas este infierno habría acabado. 「彼はすでに祭壇のそばで一種の穏やかな微笑を浮かべていたが、その微笑を返すとき、この地獄は数時間後に（数時間の間に）終わっているだろうと考えていた」

上記のように、期間の計測起点が文脈指示の場合でも、数量の不定名詞句を従える dentro de は、少なくともスペインの現代語ではその期間の終端時点を表示することになっている。例文の dentro de の和訳は、スペインのネイティブ2名に確認したところ、すべて終端時点で解釈された。しかし筆者には、例文1, 2, 4, 5では、カッコで示したような期間内の指示という解釈でも文意は通るように思われる。

#### 2.2.1.2. すべての表現手段での使用

他方、スペインの2000年の資料（すべての表現手段）では715回使われているが、その内の62例（約8.6%）が時間表現になっている。そして時間の数量名詞句はほとんどが不定名詞句であり、13例だけが定名詞句を伴っている。空間とそれに準じる概念の表現が中心になっていて、時間表現はそれほど多くはない。いくつかの例文を紹介しておこう。例文の6と7は不定名詞句の期間を伴っている例であり、述語の時制は未来である。辞書や文法書の説明に従って、発話時が起点となる眼前指示による期間の終端時点として訳しておく。また、定名詞句を伴う13例はほとんどが例文8, 9, 10のように非過去の時制の述語の文中で使われており、



その計測起点は文脈上の一時点になっているから、文脈指示による期間内の指示，ということになる。そして、定名詞句で過去の時制の述語を伴う使い方は、13例中で例文11、12の2例のみであるが、ともに文脈指示による期間内を指していると解釈できる。

6. Volveré dentro de unos días, 「私は数日したら戻るだろう」<sup>10)</sup>
7. Hay una opinión unánime en el sentido de que dentro de 15 años se adoptará un sistema mixto de modelo protección social, 「社会保障モデルの混合システムが15年後に採用されるという意味の異口同音の意見がある」<sup>11)</sup>
8. Los Registradores Mercantiles remitirán al Registro Administrativo correspondiente, dentro de los quince días siguientes a haberlos practicado, certificación literal de los asientos 「商品登記士は、それらを実行した時点からあとの15日以内に、当該の行政登記所に、覚書の逐語的な証明書を送るものとする」<sup>12)</sup>
9. Los recién nacidos de madres HBsAg positivas deberían recibir 0.5 ml de inmunoglobulina HB y una primer dosis de vacuna dentro de las 12 primeras horas de vida, inyectadas en sitios separados; 「HBsAg プラスの母親から生まれた新生児は生後12時間以内に別々の場所に注射される免疫グロブリン0.5ミリリットルと最初の1回分のワクチンを受けるべきであろう」<sup>13)</sup>
10. Si todos los pasos se cumplen dentro de los plazos previstos, la adjudicación de las parcelas tendrá lugar hacia finales de año. 「もし全ての手続きが定められた期限内に実現されたら、区分地の競売は年末ごろに行われるであろう」<sup>14)</sup>
11. JOSÉ MIGUEL [...] dio la charla “[...]”, el pasado 7 de marzo, dentro de “La Semana de la Ciencia 2000” 「ホセミゲルは『2000年科学週間』の期間内の去る3月7日、～という題名の談話を発表した」<sup>15)</sup>
12. En otros años de fuerte creación de empleo dentro de ese mismo periodo se produjeron aumentos mayores en la actividad, 「同様の期間内で強い雇用創出が起こったほかの年には、その活動のさらに大きな増加が生じた」<sup>16)</sup>

## 2.2.2. アンケート

では、スペインの実際の話者は、ある起点から計られた未来の一時点を指すための付加詞を形成する要素としての前置詞句を、どのように使っているのであろうか。不定名詞句を伴う付加詞が終端時点を指すときの表現である。dentro de とその類似の表現手段が、終端時点を指す時間表現の付加詞を形成するとき、どのように選択されるのかを探るために、e-mail を利用してアンケートを行った。

### 2.2.2.1. 質問票

質問票は以下のように、問われた者が自分で使う可能性のあるものを指摘してもらうという



形式であった。(I) は発話時から見た未来の一時点を指すとき文章で, Matte Bon の例文を借用した (2.1.1.1.)。 (II) は過去の一時点を基準点とする未来の一時点を指すときの文章で, これも Matte Bon の例文を借用した (2.1.1.2.)。 (III) は未来の一時点からその先の一時点を指すときの文章である。それぞれに選択肢として (1) al cabo de ~; (2) dentro de ~; (3) después de ~; (4) ~ después を並べた。時間は不定名詞句で表現されている。

(I) Cuando no dispones de una fecha exacta del futuro con respecto al momento en el que estás hablando, para referirte a ella dirás, por ejemplo en:

— ¿Para cuándo puede estar?

— Llámame [(1) al cabo de una semana; (2) dentro de una semana; (3) después de una semana; (4) una semana después].<sup>17)</sup>

(II) Para referirte a una fecha del pasado posterior a la situación de la que estás hablando, dirás, por ejemplo en:

— Nos conocimos en un congreso. Y [(1) al cabo de un año; (2) dentro de un año; (3) después de un año; (4) un año después] ya estábamos viviendo juntos.<sup>18)</sup>

(III) Cuando no dispones de una fecha exacta del futuro con respecto al momento del futuro del que estás hablando, para referirte a ella dirás, por ejemplo en:

— En la reunión de mañana, que es a las 10, asistiremos primero Juan y yo, y [(1) al cabo de dos horas; (2) dentro de dos horas; (3) después de dos horas; (4) dos horas después] se incorporará María.<sup>19)</sup>

#### 2.2.2.2. 回答者と回答

成人のスペイン人 12 名から回答が得られた。ほとんどが日本でスペイン語を教えている (A と E はかなり長期に日本に滞在している。B はイギリスで英文学を教えているスペイン人である。F はスペインでスペイン語を教えている)。

その結果は以下の図表のようであった。

#### 2.2.2.3. アンケートから判明すること

上記の結果からは以下のことが判明した。

(1) 発話時から時間を計測して未来の一時点を終端時点として指すには (眼前指示), dentro de が確定的に使用されている。Matte Bon, García Fernández, NGLE の指摘の通りである。

(2) 過去から未来の一時点を指すとき, 期間の計測起点は文脈指示によって得られるのだ

が、al cabo de と ~ después が一般的であるといえよう。Matte Bon, García Fernández, NGLE の指摘の通りである。

(3) 未来から未来の一時点を指すとき、Matte Bon にも NGLE にもその用法に関する指摘はないが、これも期間の開始時点は文脈指示によって得られることになる。después を使うのが一般的であり、ついで al cabo de も使われている。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
(1) 発話時から未来												
al cabo de ~	○	○								○		○
dentro de ~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
después de ~					○							○
~ después					○							○
(2) 過去時から未来												
al cabo de ~	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
dentro de ~												
después de ~	○	○	○	○						○		○
~ después	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
(3) 未来時から未来												
al cabo de ~		○	○			○	○		○	○	○	○
dentro de ~												
después de ~	○	○	○				○		○	○		○
~ después	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

使用実態の一端を探るための簡単なアンケートであるから、あくまで暫定的ではあるが、その結果から以下のことがわかった。一時点から計測した期間の終端時点をさす表現手段として、スペインでは、個人差はあるものの、発話時を起点にして（眼前指示によって）計測された一定時間の終端時点を表示するときには dentro de ~ が、文脈上の一時点から計測された（文脈指示による）時間の終端時点を表示するには al cabo de ~ や después が使われている。

### 2.2.3. スペインの現代語での dentro de の用法

上記の 2.1.4. で、発話時起点の計測で未来の一時点を指すときには、そこで使われる時間の数量的表現のための名詞句は、不定名詞句のことを指していると判断されるが、この点は実際の用例を検討してみればわかるだろうと指摘した。そして上記の 2.2.1. で dentro de の用例をしらべてみると、以下のことが判明した。

A. dentro de が時間の不定数量名詞句を伴っている場合で、眼前指示。

2.2.1.1. において、不定名詞句が現在や未来の時制の述語とともに使われていて、その時間が発話時を起点にして計測されていれば、すなわち眼前指示の場合には、その時間の終端時点

が示されることが分かった。この点については2.2.2.のアンケートでも確認することができた。[不定名詞句－眼前指示－終端時点表現]の表現パターンが確立していることになる<sup>20)</sup>。

B. *dentro de* が時間の不定数量名詞句を伴っている場合で、文脈指示。

しかしまた、2.2.1.1.において、不定名詞句が過去時制の述語とともに使われていて、文脈上の一時点から計測される文脈指示の場合にも、*dentro de* の付加詞がその期間の終端時点を目指す解釈されることもわかった。しかし文脈によっては期間内を目指すとする解釈も可能であると思われる<sup>21)</sup>。

C. *dentro de* が時間の定名詞句を伴っている場合なら文脈指示。

他方、2.2.1.2.において、時間の定名詞句を伴っているときには、述語の時制が現在・未来・過去の如何を問わず、その期間を計る起点は文脈上の一時点であり、すなわち文脈指示の起点であり、その時間の範囲内を目指すことがわかった。[定名詞句－文脈指示－期間内表現]のパターンが確立している、と解釈することができる。

なお、定名詞句を伴う *dentro de* が一定の時間帯の内部（期間内）をさすことは、すでに二宮（2012）が指摘している。他方、長縄（2013）は「*dentro de* + 期間の定名詞句」の興味深い用例を紹介している。レンタル自転車の返却規則である。そこには会話文であるかのように *Recuerda que debes devolver la bicicleta dentro de las próximas 2 horas en cualquier estación.* 「2時間以内に自転車をステーションに返却してください」（長縄の訳文）と明記されているという。長縄の口頭の指摘では、この規則では貸出し後の2時間を過ぎると延滞料金がかかるそうであるから、和訳としては「2時間たったら」よりも「以内」のほうが自然である。この例文は眼前指示固定の付加詞を作る形容詞の *próximas*（「発話時以降の」）を含んでいるが<sup>22)</sup>、期間が定名詞句で示されている。定名詞句だから文脈指示（時間の計測の起点が文脈上の一時点）になるのであろう。しかしながら、この *próximas* はレンタルの手続きを行った時点が発話時並みに扱われている。手続きを行う時点は、広い意味での文脈で決まるからには、この場合の *dentro de* は眼前指示固定の付加詞としてではなく、文脈指示の一時点を起点として計るそれ以降の2時間を指しているはずである。文章語である返却規則を、あたかも口頭語であるかのように記述している、珍しい使い方である。

### 2.3. *dentro de* の古い用法

以上で現代スペイン語における *dentro de* の使い方が理解できた。ではここで、*dentro de* の古い使い方を調べてみることにしよう。

García de Diego（1970: 395）は『スペイン語歴史文法』のなかで、「*dentro de* は、（今日）直接話法では過去時の表現で使われないが、古典期のスペイン語では使われていた」（*dentro de en estilo directo no se usa con tiempo pasado, pero sí podía usarse en la lengua clásica*）と断っている<sup>23)</sup>。他方、NGLE（『スペイン語新文法』）（24.4g）も、古典期のスペイン語では今日のように

な発話時に関連づけられる（眼前指示の）Llegará dentro de dos días.「彼は2日後に着くだろう」も、発話時以外の時点に関連づけられる（文脈指示の）Llegó dentro de dos días.（= ‘... al cabo de dos días’）「彼は2日後に着いた」も許されていた、と指摘している。そしてカッコのなかの言い換えを見ると、NGLEはこのdentro deが終端時点を指す、と解釈している。dentro deの期間計測の起点については、NGLE（29.6ñ）でも、古典期（16・17世紀）のスペイン語では発話時に限られていたわけではない、と述べられており、文脈指定の計測起点の用例がいくつか紹介されている。これらの指摘は、dentro deが通時的にその用法を変えてきた可能性のあることを示唆している。その点にも注意して具体的な用法を検討してみよう。

### 2.3.1. dentro de の語義の変遷

M. Alonso（1958）の辞書にはスペイン語の語義の変遷に関して通時的なデータが記載されている。その見出し語 dentro には4種類の語義が提示されている<sup>24)</sup>。

最も古いのは（1）であり、12世紀から今日まで使われている「限定された空間の内部において」、（2）は15世紀から始まる語義で「始点と終点のある時間の中で」、（3）は16世紀から始まる転義であり、抽象的な空間・時間の中を指す。そして（4）は「一定の期間が終わる前に」であるから、明確に終端時点とは定義されていないがそれに近い表示にあたるであろう。しかしこの語義の使用開始時期は示されていない。先行語義の（3）の時期に準じるとすれば、近世初頭の古典期にあたることになる。

この記述から以下のことがわかる。dentro (de) は中世から空間の内部を指すのに使われていたが、中世末頃から期間の内部を指す使い方に拡張した。すなわち、本稿の3.1.で説明されている「dentro deによる期間内指示」が成立したことになる。そして終端時点の指示であるが、この語義の使用が古典期から始まっていたとすれば、上記のGarcía de DiegoやNGLEの指摘の通りであることになる。

しかしながら、dentro deが導く期間の名詞句の定・不定には触れられていないし、期間計測の起点についての眼前指示・文脈指示にも触れられていない。一応の参考資料でしかない、ということになる。

### 2.3.2. 中世での使用

アカデミアの通時的なスペイン語コーパスのCORDEを筆者なりに調べたところ、スペインの全資料で1100–1300年では、dentro deが90例（39種の資料）出ているが、それらはすべて空間的な場所の補語を従えていて、時間の数量的な名詞的補語（complemento nominal cuantificativo temporal）は1例も含まれていない。そして1301–1400年では351例（55種の資料）出ている、その中の26例（約7.4%）が時間の数量的な名詞的補語が含まれていた。dentro deは、初期スペイン語の時期では、もっぱら空間を指す前置詞句であったが、14世紀には、空

間の広がり の表示から時間の表示へ意義拡張をしていたと考えられる。CORDEによれば、M. Alonsoの語義の(2)「始点と終点のある時間の中で」が始まっていたことがわかる。

これらの実例に関する筆者自身の解釈では、つぎの点に気づかされた。

14世紀の古いスペイン語で *dentro de* が不定の数量名詞句によって時間表現されるとき、その計測起点は過去時(例文13)であることも発話時(14)であることもある。

13. *maguer que dentro de VI meses de allí auant tres emperadores, vno apres de otro, esto es, Aureliano, Tacito et Floriano, fueron muertos por diuersas causas*<sup>25)</sup>. 「とはいえ、その時以降の6ヵ月の間に、3人の皇帝はひとりずつ、すなわちアウレリアヌス、タキトゥス、フロリアヌスは、色々な理由で死んでしまった」

14. *Si qujeres que el vjno aya buena olor dentro de breue tiempo*<sup>26)</sup>, 「あなたがもし、ワインが短期間に(短期間の後に)良き香りがするようになることをお望みならば」

例文13では、*dentro de* に伴う名詞句は *VI meses* 「6ヶ月」であり、その計測の起点は *de allí* 「その時から」という文脈上の一時点であるが、*de allí auant* 「それ以降の」とあるから、定名詞句に準じている。そして3名の皇帝が死んだというのであるから、*dentro de* は期間内を指していると解釈される。

例文14は、その時間の計測起点は基本的に発話時であるが、農業技術指導書の文章であるから、実際は文脈上の一時点である(文脈指示)。そして不定名詞句を伴っているからには *dentro de* が終端時点を指しているという解釈が可能であるが、また同時に期間内の解釈も可能であろう。

また、26例のほとんどで *dentro de* は時間表示の不定名詞句を伴っているが、明確に定名詞句を伴っているのは2例であった。その1例が例文15である。文脈の一時点から計測される文脈指示の期間の内部(期間内)を指していると解釈される。

15. *E avn deues saber que por la mañana deuen buscar las abejas. por tal que dentro de aquel dia. ayas complida toda la obra*<sup>27)</sup>. 「そしてまた、午前中に蜜蜂を探すべきであることを知っておいてほしいが、それは全ての仕事その日の内に終わらせるようにするためである」。

### 2.3.3. 『アマディス・デ・ガウラ』の *dentro de*

また、中世末期の騎士道小説である『アマディス・デ・ガウラ』は13世紀から15世紀末までのスペイン語で書かれているが<sup>28)</sup>、CORDEで調べると、この作品には *dentro de* が10回使われている。そのうちの2例が空間表現であり、残りの8例が時間表現である。8例のうちの3例が直接話法(例文16)、5例が間接話法(例文17)の文に含まれている。期間表示はすべて不定数量名詞句であるから、終端時点を表していると解釈できるが、当時の人間の移動手段を考えれば、むしろ訳文でカッコにいれて示した期間内の解釈の方が自然であるようにも思わ

れる。なお、例文 17 は直接話法で使われた *dentro de* という表現がそのまま間接話法に引用されたのかもしれない。そうすれば時間計測の起点は眼前指示で行われていることになる。

16. *que según he sabido serán aquí dentro de cinco días;*<sup>29)</sup>「私にわかったところでは、彼らは 5 日後には (5 日の間には) ここに来ているであろう」。
17. *este rey [...] ordenó que dentro de cinco días todos [...] a cortes viniessen*<sup>30)</sup>「この王は全員 5 日後に (5 日の間に) 宮廷に来るように命じた」。

#### 2.3.4. 古典期での使用

では、問題の古典期ではどうであろうか。17 世紀初頭に出版された Cervantes の『ドン・キホーテ』*Don Quijote* における用法を調べてみた。この作品には *dentro de* が 18 回現れているが、時間表現が以下の 3 例で使われている。3 例とも期間表示は不定数量名詞句で行われている。例文 18 は間接話法の文、19 は直接話法の文、そして 20 は過去時の語りの文である<sup>31)</sup>。

18. *dijo a Lotario que [...], que dentro de hora y media volvería.*<sup>32)</sup>「(彼は) 1 時間半後に戻るとロタリオに言った」。
19. *libro a quien daré fin dentro de cuatro meses,*<sup>33)</sup>「(その) 本を 4 ヶ月後に終えるつもりだ」。
20. *de lo que recibió tanto enojo la reina doña Maguncia, madre de la infanta Antonomasia, que dentro de tres días la enterramos*<sup>34)</sup>。「このことで、王女アントノマーシアさまの母君、ドニャ・マグンシア女王は大変なお立腹で、そのために、三日後には、私どもは女王様をご埋葬いたした次第でございます」(会田：1985, 37-28)。

#### 2.4. *dentro de* の中世・古典期での用法

*dentro de* の中世と古典期での用法を、用例の 13 から 20 までを使って検討してみた。その結果、つぎのような傾向のあることがわかった。

前置詞句 *dentro de* が伴っている時間の表現が定名詞句のとき、時間表現が空間表現並みに期間内を表現している。

そして時間表現が不定名詞句で行われている場合、その期間の計測の起点は、発話時であったり (眼前指示)、文脈の一時点であったりする (文脈指示)。そして *dentro de* はその期間の終端時点を指していることがわかった。2 種類の表現パターンである [眼前指示-終端時点表現] と [文脈指示-終端時点表現] が使われていたと解釈される<sup>35)</sup>。とはいえ、いずれの指示方式にせよ、期間内表現の可能性の存在は否定できない。

### 3. dentro de の用法に関する疑問点とその解答

以上で、前置詞句 dentro de の現代語での使い方と古い使い方の様相が明らかになった。しかしこの前置詞句の用法についてはいくつかの疑問点が生じる。その疑問点を指摘し、筆者の仮定的な解答を提示してみよう。

#### 3.1. 期間の計測起点の文脈指示と眼前指示

2.2.3. で確認されたように、現代スペイン語の規範では、発話時を起点とする時間計測の眼前指示で、それに導かれる不定数量名詞句の期間の終端時点を指示するには、一般的に前置詞句 dentro de が使われる。発話時を起点とする時間計測では、終端時点を表示するとき、文脈上の一時点から時間を計測する文脈指示のように ~ después や al cabo de ~ がほとんど使われていない (cf. 2.2.2.)。なぜであろうか。

ズワルト (Zwart, 1980: 111) は時間の方向性について「①時間は現象間の一般化した前後の関係である。②時間の方向は現象の継起の順序である」と定義している。そして瀬戸 (1997: 32) も「ふつう、時間は、過去から未来へ永遠に流れていくもの、と理解されているのではないか」と指摘している。ということは、ある一時点で時間の流れを眺めるとき、過去が後方に、未来が前方に位置づけられることになる (図1)。スペイン語の副詞の antes 「以前に」や después 「以後に」は時間的な前後関係の意味を表しているから、dos días antes 「二日前」と言えばその時点から見た過去の二日前の時点を指し、dos días después 「二日後」と言えばその時点から見た未来の二日後の時点を指すことになる。筆者はこのような時間表現が常識的な時間意識による時間指示、すなわち文脈指示の時間表現であると解釈している。

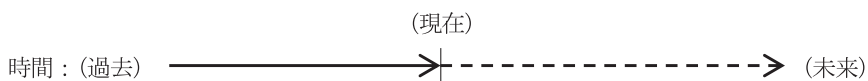


図1

それでは、眼前指示の場合の時間表現はどのようになっているのであろうか。瀬戸は他方で (1995: 94-95), 時間を直線的な方向に進むものと想定しながら、「時間の前後」という問題を論じている。「常識的には、時間は、過去から現在を通して未来に向かって進むと考えられるかもしれない。しかし、この常識は、言語データによって反証される。言語的時間は、未来から現在を通して、過去へと進行するのである」と言う。瀬戸のさらなる解釈 (1995: 98-100) によると、この言語的時間の「流れを知覚する人間は、流れそのものには加わらず、傍で傍観者として時間の進行を見送る」。そして日本語の「前途」とか「前路」ということばからわかるように、意志的主体としての人間は、「過去から現在にやって《来る》。そして、現在から未来へと向かって《行く》。進行の前面にあたる未来が『前』であり、進行の背面にあたる過去



が『後』となる。人間の進行は、いわば時間の地盤の上でなされ、時間はこの進行に加わらない」と言う。

瀬戸の言う言語的時間では、「過去」が時間の流れの後方であり、「未来」が時間の流れの前方なのである。すなわち、この言語的時間という考えからすると、発話者が、ある行為の実現する一時点を、言語的時間のなかで位置づけるときには、未来から過去に向かって流れる時間を眺めながら、時間の流れのなかにその一時点を位置付けることになる。時間上のある一時点を起点にして、「二日前」と言えばその時点から前方（未来）の二日先の時点を指し、「二日後」と言えばその時点の後方（過去）の二日先の時点を指すことになってしまう。筆者はこれを、言語的時間による時間指示、すなわち眼前指示の時間表現であると解釈している（図2）。

筆者の解釈では、この人間（発話者）が意志の主体として、未来から過去の方に流れる時間を観察している状況こそが、発話者が眼前指示で（発話時を時間計測の起点として）特定の一時点を指定するときの状況であることになる。すなわち、発話時という位置に立って未来の方を向き、眼前指示により、発話時を起点にして計測される一定の期間の先の（未来の）一時点を指すとき、その未来の一時点は話し手の前方に位置することになる。「後」とは、過ぎ去った過去の時間であることになるので、もし眼前指示で「二日後」（dos días después）と指示すれば、それは過去に流れ去っていく時間のなかの、二日先の過去の一時点を指すことになる。それゆえ、発話時を起点として未来の一定の期間を計測してその先の一時点を指すという眼前指示では、時間的な後の意味の～despuésとかal cabo deという表現（dos días después, al cabo de dos días「二日後に」など）が使えないのである。そしてその代わりに、発話者の眼前に広がっている空間概念を表すdentro deを使って、眼前に流れてきている時間のなかの、未来の一定の期間を表現するのである。

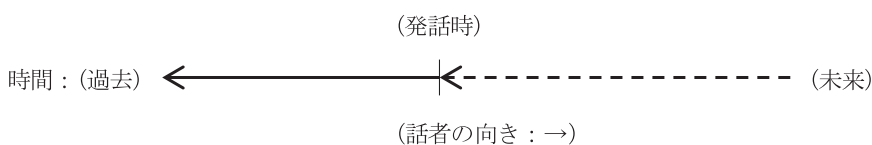


図2

### 3.2. dentro deによる時間表現

本稿第1章で紹介したように、前置詞句dentro deは期間を表現する数量名詞句を伴って2種類の意味を表現する。その期間内の意味と、その期間の終端時点の意味である。この両者の意味にはどのような関連があるのであろうか。

#### 3.2.1. 辞書の定義

第1章では5種類の辞書の定義を紹介した。アカデミアの辞書DRAE（1.1.）では、終端時

点の意味は「現在から計測された期間の終点を指すのに使用される」と説明されているが、期間内の意味は取り立てては説明されていない。語義の3で説明されている「実際の、あるいは想像上のスペースの内部において」の意味に含まれていると解釈される。Cuervo (1.2.) では、期間内の意味が「ある期間の時点や時期において」となり、終端時点の意味が「ある期間が終わる前に、あるいは期限が切れる前に」と説明されている。現代語の辞書では、SALAMANCA (1.3.1.) では期間内の意味が「指定されている期間のなかで」となり、終端時点の意味が「指定されている期間が終了する、まさにその瞬間において」となっているし、CLAVE (1.3.2.) では期間内の意味が「その経過時間の中に」、終端時点の意味が「その期間が終わったとき」となっている。そして M. Seco *et al.* (1.3.3.) では期間内の意味が *en el plazo de* ~ 「～の期間内に」と同義、終端時点の意味が *al cabo de* ~ 「～後に」と同義であると説明されている。

上記から推測されることは、期間内の意味が、*dentro* のもとの空間内という意味と類似していて、静的な空間と同様に静的な時間（期間）として扱われているのではないかと、ということと、終端時点の意味が空間的な意味とは異なるものとして扱われていて、経過する動的な時間として表現されているのではないかと、ということである。

### 3.2.2. *dentro de* による期間内表示

本稿の2.2.3.や2.4.において、*dentro de* が時間の定名詞句を伴っている場合、その時間を計る起点は文脈上の一時点であり、すなわち文脈指示の起点であり、その時間の期間内を指すことがわかった。では、もともと空間の範囲を示す *dentro de* が、なぜ期間内指示のような時間表現が可能になるのであろうか。その理由には、以下に述べるような、時間という概念の、認知的な把握の仕方が関与していると思われる。

瀬戸 (1997: 28) は「メタファーによる意味の拡張の方向は、空間から時間で」と断言している。また、瀬戸 (1995: 84) によれば、言語学的な時間論は時間のメタファー論であるが、そのようになるのは「時間という抽象概念は、何らかのより具象的な、意味の分節がより明確な継承を借りることによってしか、ほとんど思考することも表現することもできないからである」。そして言語学的な時間の概念が、空間の概念との類似性を手掛かりにして空間とのメタファーとして理解されていることは、Traugott (1978: 371) が “It has been suggested by many linguists that at least some subparts of the temporal system of language are locative in underlying structure.” と明確に述べている。瀬戸はさらに (1995: 90–91)、時間表現のために利用されている空間のメタファーを調べていくとき、「私たちは、無意識にひとつの公式に従おうとしていることに気付く。その公式とは、《時間の諸相は、空間の諸相を通してあらわれる》というものである。つまり、空間の構造（の一部）が時間に投影されて時間表現が生まれるということである」として、空間の構造化に言及する。空間の構造化には場所と方向が関与するが、「場所は静的な空間を含意し、位置・形・延長（広がり）が問題となる」としている。筆者の理解

では、前置詞句 *dentro de* による期間内指示の認知的メカニズムには、この静的な空間の形と広がりがかかわれていると思われる。

ここで辞書 SALAMANCA の記述を参考にしてみよう (cf. 1.2.)。この辞書では見出し語 *dentro* の第1義は「場所や空間の内部において」、すなわち空間内を指す意味であり、つぎの例文 21 が示されている。そして *dentro de* の期間内指示の使い方として例文 22 が紹介されている。

21. El dinero está dentro de la caja.

「お金はその箱の中に入っている」

22. Dentro del Barroco destacan numerosos autores de teatro.

「バロックの時代には多数の演劇作家が目立っている」

例文 21 では形も広がりも確認できる *la caja* の内部を指しており、22 では定名詞句の *el Barroco* という限定された時間的な広がり内部を指している。

定名詞句の場合、それが時間概念の意味のものであっても、時間の流れから切り離された開始時点と終端時点が把握できる時間帯であって、空間概念の場合のようにモノ化<sup>36)</sup>している、すなわち特定の時間帯が空間の場所の概念と同等に、動きのない概念として理解されている、ということになる。

静的な空間のメタファーであるから、この時間的な広がりには、時間の認識が含む方向性の概念を帯びていない。そしてそれゆえ、期間内の表現ができる。

### 3.2.3. *dentro de* による終端時点表示

眼前指示で発話時を起点にして計測した時間の終端時点を目指すのに、現代スペイン語では期間の意味の不定数量名詞句を伴う前置詞句 *dentro de* が使われている。では、もともと空間内を指す *dentro de* が、何故に、時間の終端時点を指すことができるのであろうか。

上記の 3.1. で説明されたように、眼前指示とは、人間が意志の主体として現在から未来の方に目を向けている姿勢で時間表現をするのである。そして言語的時間では、「過去」が時間の流れの前方であり、「未来」が時間の流れの後方なのである。人間（発話者）が自分の位置から前方に向いて（未来に向いて）立っているとき、言語的時間は未来の方から流れてきて、後方に（過去の方に）流れ去る。眼前指示の場合、「*dentro de* + 期間の意味の不定数量名詞句」の語連鎖は、*dentro de* で空間の範囲を限定するのと同じように、前から流れてくる時間の未来の一定の期間の範囲を指定し、「その期間の内部で」という意味を表現することになる。すなわち、発話者が未来に向かって立っていて、前から流れてくる動的な時間の一部である「その期間内に」という意味になる。その期間の末端の時点は話者の方法に向かって流れてくる。だから「その期間内に」という意味は、「その末端の時点が話者の位置に到達するときまでに」ということになる。そしてこの意味は Cuervo の「ある期間が終わる前に、あるいはある

期限が切れる前に」という定義と一致している。流れてくる動的な時間の一部である期間について、その内部を指すということは、その期間の終端時点を指定することにほかならない。未来から話者に向かって流れてくる期間の終端時点を指定するということは、Claveのように「その期間が終わったとき」を指定することになり、終端時点の指示ということになったと思われる<sup>37)</sup>。

他方、動的で流れる時間の一部である期間の内部を考えると、静的な空間の内部とは異なる特徴が存在することに気付かれる。静的な空間の内部で起こる出来事は、その空間の外部との境界部分では起こっていない。しかし動的な期間の内部で起こる出来事は、その期間の終端時点では確実に起こっている。それゆえ、期間内の表現であっても、流れている時間を限定した期間の場合には、その終端時点を表示することで、その期間内で出来事の起こることを表現することができる。

未来の期間を発話時起点で計測する眼前指示の場合、上記の「その期間が終わったとき」(すなわち発話時)という意味に、おなじく上記の終端時点で期間内の出来事を指す解釈が加わる時、結果としてその期間の終端時点を指すことになるのであろう<sup>38)</sup>。

### 3.3. *dentro de* による時間表現の変異

現代スペインの標準語では、時間の不定数量名詞句を伴う *dentro de* は、眼前指示で発話時を起点にして計測される未来の期間の一時点を指すのに使われている。この用法はアンケートからも確立された規範的な規則であることがわかった (cf. 2.2.2.3.)。しかしこの用法を通時的に検討したり (3.3.1.)、共時的に検討したりするとき (3.3.2.)、どのような違いの存在に気付かれるのであろうか。

#### 3.3.1. *dentro de* の古い用法

前置詞句 *dentro de* の時間指示の表現について現代 (2.2.3.) と中世・古典期 (2.4.) との用法を比較すると、*dentro de* に伴う期間が不定数量名詞句であるとき、中世・古典期では問題の期間の終端時点を指すことは現代と同じであっても、現代のように眼前指示に限定されていない。筆者の解釈では、*dentro de* のこの用法は眼前指示の場合に起こる。それに反して、この前置詞句が、期間の計測起点が文脈上の一時点であっても (文脈指示であっても) 終端時点を表現するという言語現象は、どのように説明することができるのであろうか。

不定数量名詞句を伴う *dentro de* の文脈指示といえ、文脈上の一時点から計測した期間を指す。まず、文脈指示でも定名詞句であれば空間の表現と同様にモノとして扱われる、流れを意識しない期間のことになり、基本的に期間内を指す。不定数量名詞句が使われていて、流れる時間の一部としての期間が示されているとすると、「その期間が終了する前に」という意味が表現され、結果として終端時点を指すことになろう。過去の出来事について、たとえば特定

の文脈上の一時点から計測してその「3日後に」という意味を表現するのなら、明確にその意味を示す表現手段の *tres días después* とか *al cabo de tres días* などが使われてもいいのに、あえて期間内の意味を持つ *dentro de tres días* を使うということは、断定的な時間表現を避けるという意図があったのではなかろうか。文体論的な工夫のひとつであるとも解釈されよう。

とはいえ、2.3.3. や 2.3.4. で紹介した用例には *dentro de* が間接話法の文のなかで使われているという現象に注目したい。直接話法の文のなかで眼前指示で使われた前置詞句が、間接話法になってもそのまま残っていることから、話法に関係のない文のなかでも文脈指示的に使われていた、という可能性があったのではないかと、と思われる<sup>39)</sup>。

### 3.3.2. スペイン系アメリカでの用法

本稿の 2.2.2. で紹介したアンケートを、スペイン系アメリカの数か国でも、10 数名のインフォーマントに対して行ってみた。あくまでも単純な調査方法ではあるが、その結果、質問の (I) : 発話時から見た未来の一時点を指すとき、すなわち発話時を起点にして計測した未来の期間の終端時点を指すとき、不定の数量名詞句と *dentro de* が使われる割合は、スペインの場合のように 100% (12 名中 12 名) の回答を得られる国は、アンケートを実施した国のなかには存在しなかった。その割合は、概算ではあるが、メキシコ 50% (16 名中 8 名)、コロンビア 30% (16 名中 5 名)、ベネズエラ 42% (12 名中 5 名)、ペルー 50% (12 名中 6 名)、チリ 43% (14 名中 6 名)、ウルグァイ 50% (12 名中 6 名) であった。いずれの国にしても、多くて半数のインフォーマントしか *dentro de* を選ばなかったのである<sup>40)</sup>。

*dentro de* が使われる割合はスペインとスペイン系アメリカでは上記のような違いがある。この違いについてはどのような説明が可能なのであろうか。

### 3.3.3. 規範性の度合い

現代スペインの標準語における、不定の数量名詞句を伴う *dentro de* の時間表現は、古い時代の用法とは異なって文脈指示を排除して眼前指示に限定し、眼前指示による未来の一時点を指す用法が規範となっている。そしてその規範性は高い。2 名のスペイン人に本稿の用例の解釈を依頼したが、中世の例文であれ古典期の例文であれ、すべて終端時点であるという解釈であった。規範性の度合いの高さはこの事実からも推定される。そしてその用法は、筆者の単純なアンケートの結果のみから判断すると、スペイン系アメリカでは規範性の度合いが低い、と言えよう。

## 4. 結 論

本稿は現代スペイン語における時間表現の *dentro de* の使い方について、筆者が抱いてきた

素朴な疑問に対する、筆者なりの暫定的な回答である。

第1章では、この前置詞句が今日、空間の内部・時間の内部（期間内）・時間の終端時点という3種類の意味を表現していることを確認した。

第2章では現代語における使い方を調べたが、その結果、現代スペインの標準語では〔不定名詞句－眼前指示－終端時点表現〕の表現パターンと、〔定名詞句－文脈指示－期間内表現〕の表現パターンが確立していることがわかった。そして〔不定名詞句－文脈指示－終端時点表現〕の表現パターンは、規範的には *dentro de* が使われず、その代わりに *al cabo de* や *después* が使われることもわかった。しかし同時に、現代語でも、古典期に使われた〔不定名詞句－文脈指示－終端時点表現〕の表現が残っていることもわかった (cf. 2.2.1.)。他方、中世・古典期では、〔定名詞句－文脈指示－期間内表現〕の表現パターンは見られたものの、〔不定名詞句－眼前指示－終端時点表現〕と〔不定名詞句－文脈指示－終端時点表現〕が使われていたものと推定された。

そして第3章では、第2章の最終段階で生まれる、*dentro de* に関するいくつかの疑問点を指摘し、それに筆者なりの仮説的な解答を提示した。期間の計測起点の文脈指示と眼前指示 (3.1.)、*dentro de* による時間表現 (3.2.)、*dentro de* による時間表現の変異 (3.3.) である。筆者の解釈では、〔*dentro de*－期間の意味の不定数量名詞句－終端時点表示〕という表現パターンはその期間の計測起点が発話時である、すなわち眼前指示のときに可能になると思われる。しかるに中世や古典期ではその計測起点が文脈の一時点である、すなわち文脈指示のときにも可能であった。その用法については、筆者はまだ納得のいく説明ができない。

要約すると、本稿では、スペインの標準語における *dentro de* の使い方について、以下のよる暫定的な結論を提示することができる。この前置詞句は今日、空間の内部・時間の内部（期間内）・時間の終端時点という3種類の意味を表現している。この3種類の語義は大きく2種類に分けられる。それが伴う名詞句の意味が静的な概念である場合と動的な概念である場合である。静的な概念は空間と、それに準じる形の、モノとしての時間（期間）が対応する。モノ的な期間ならその計測の起点は文脈の一時点である。そして動的な概念には流れゆく時間の一部（期間）が対応する。この場合の期間の計測起点は発話時である。そして「その期間の終わる前に」（すなわち「未来から流れてくる時間の一定期間の終端が発話時に到着する前に」）という意味から、無理のない認知的な意味解釈によって終端時点を表示するという意味で、規範的に使われているのであろう。

#### 注

- 1) 発話時から見た未来の時点という指摘は Emilio Lorenzo にもある。«no podemos sustituir *en por dentro de* en la frase *hicieron el viaje en ocho horas*, pues *dentro de*, con valor temporal, sólo es aceptable hablando desde el presente (para el pasado y futuro usamos *al cabo de* o *después de*)» (1971: 50, 注25)。「私たちは『8時間後に旅行を開始した』という文では *en* を *dentro de* に置き換えることはできない。というのも、



- dentro de は時間の意味で使うとき、現在時からの表現でのみ使用できるからである」。
- 2) この時間表現 ~ después については、スペインの一部とスペイン系アメリカでは「después de + 時間の量的表現」という形式も使用されると指摘されている (Matte Bon 2005: II, 199)。
  - 3) たとえば日本独特の時間計測の単位やカレンダー時間がある。
  - 4) NGLÉ の引用箇所は、頁数ではなくて項の番号を使用する。
  - 5) また Butt & Benjamin (2004: 460) にも «*Dentro de can only refer to the future or the future in the past. One cannot say \*lo hice dentro de un año 'I did it in one year' (lo hice en un año)*» という同様の指摘がある。ただし、ここに指摘されている or the future in the past という語句の意味と、使えない例文の存在との関係が明白ではない。
  - 6) この項では「a + 定冠詞 + 時間の名詞句」の表現形式にも言及されている。これも一定の時間が経過した時点を示すが (終端時点の指示)、その時間計算の基準点は発話時以外であるという。なおこの段落には después が含まれていない。その対義語である antes の表示によって después の使用も暗示しているのであろうか。
  - 7) なお、García Fernández (1999: 3143) では、前置詞 durante が導く時間表現に 2 種類のタイプがあるとしている。ひとつは <Durante + sintagma nominal cuantificado> で、もうひとつは <Durante + sintagma nominal determinado> である。前者は「数量名詞句」、後者は「定名詞句」である。筆者は前者を不定名詞句のことでありと解釈する。Matte Bon や NGLÉ の名詞句もこれに準じていることになる。
  - 8) Carlos Casales, *Dios sentado en un sillón azul*, 1966, p. 44.
  - 9) 例文 2 ~ 5 は同一作品に属している。Ignacio Carrión, *Cruzar el Danubio*, 1995. 頁はそれぞれ 22, 49, 65, 187.
  - 10) 小説: Silva, Lorenzo, *El alquimista impaciente*, 2000, 264.
  - 11) 新聞: *El Norte de Castilla*, 02/12/2000.
  - 12) ウェブ頁: EFIMERO, 00206013. Página web 2000. 筆者に不明な専門用語は暫定的な訳文である。
  - 13) 新聞: *Boletín Epidemiológico Semanal*, 17-30/12/2000. この訳文も暫定的である。
  - 14) 新聞: *El Norte de Castilla*, 27/11/2000. この訳文も暫定的である。
  - 15) 新聞: I@c.noticias, No. 47, 2000.
  - 16) ウェブ頁: EFIMERO, 00206011. Página web 2000.
  - 17) [訳文] あなたが発話時から見た未来のはっきりした一時点を明確に決めていないとき、その時点を目指すのに何と言いますか。たとえば「いつごろ居られるのですか」「1 週間後 (1, 2, 3, 4) に電話してください」。
  - 18) [訳文] あなたたちが話し合っている内容の状況から後の過去の一時点を目指すのに何と言いますか。たとえば「私たちは会議で知り合った。そして 1 年後 (1, 2, 3, 4) にはもう、一緒に住んでいた」。
  - 19) [訳文] あなたたちが話し合っている未来の一時点から先の一時点を明確に決めていないとき、その時点を目指すのに何と言いますか。たとえば「10 時に始まる明日の会議に、まずホアンと私が出席し、2 時間後 (1, 2, 3, 4) にマリアが加わるだろう」。なお、翌日の 10 時に会議が始まって、その 2 時間後、というのであれば、「12 時に」a las doce という表現も選択できるであろう。
  - 20) 発話時起点の期間を表示するときにその表現が不定名詞句になる理由は、池上嘉彦が指摘する「ゼロ表示」という現象と関係がある。池上は「自明のことでも義務的に言語化しなければならないという制約の強い言葉でも、話者は定位の原点としての自己を〈ゼロ〉化するということがある」(2007: 296) と述べて、つぎのような具体的な例を提示している。「時間に関係した例で言えば、〈翌週〉ということであれば、'next week' とも 'the next week' とも表現されうるが、前者が使われるのは話し手が自らの発話の現時点を基準にしての〈翌週〉の場合、後者はそれ以外の基準点を想定して、そこから見ての〈翌週〉[...] ということになる」(2007: 300)。不定名詞句と眼前指示のつながりの強さのことである。とはいえ、dentro de の場合には、以下の B 点で示されているように、不定名詞句で文脈指示を行うこともある。
  - 21) 以下の 2.3. で紹介されるように、古典期に使われた [不定名詞句 - 文脈指示 - 終端時点表現] という表現パターンが残存している、ということになる。
  - 22) Cf. 2.1.3.2.1.



- 23) 用例は *Murió dentro de ocho días de las heridas*. 「(彼は) 傷を受けてから8日以内に/8日後に死んだ」。「8日」という期間はその計測起点が「傷を受けてから」で示されている(文脈指示)。過去の事実を記述しているが、死亡の日時が判明しているのなら「8日後」が適訳であろう。しかしその日時が漠然としていて、とにかく8日後には死んでいたのなら、「8日以内」の意味で使われているのであろう。
- 24) (1) *adv. l. y t. s. XII al XX. En la parte interior de un espacio limitado. [...] Se construye con las preps. de, por y hacia y se suele anteponer a en, significando dentro de; DENTRO de su alma.* (2) *adv. de t. s. XV al XX. Significa en un tiempo entre el momento inicial y el final: DENTRO de unos meses. [...] (3) fig. s. XVI al XX. En un espacio o en tiempo limitado; se aplica a objetos inmateriales: DENTRO de su propia obligación. [...]* (4) *Antes de expirar cierto plazo: DENTRO del primer año de su reinado [...]*.
- 25) 1376–1396, Fernández de Heredia, Juan, *Traducción de la Historia contra paganos*, de Orosio.
- 26) 1380–1385, Ferrer Sayol, *Libro de Palladio*. BNM 10211, (Universidad de Alcalá de Henares, 2004).
- 27) 1380–1385, Ferrer Sayol, *Libro de Palladio*. Pag. FOL. 135R.
- 28) Cf. Miyoshi 1995. 4部構成で、Libro Iが13世紀の写本、Libro IIとLibro IIIが14世紀の写本からの転載で、Libro IVが15世紀末に書かれた著者のオリジナルであると推測されている。
- 29) Libro III (p. 1244).
- 30) Libro I (p. 530).
- 31) スペイン人2名に確認したところ、いずれの例でも dentro de は期間の終端時点を指している。これらの例文の訳ではネイティブの解釈に従ったが、本稿の1.2. で紹介した *Cuervo* の「ある期間が終わる前に、あるいはある期限が切れる前に」(期間内) という解釈も可能であろう。
- 32) Edición de Cacho Blecua, pág. 390.
- 33) Edición de Cacho Blecua, pág. 623.
- 34) Edición de Cacho Blecua, pág. 946. 「三日後には」の訳文は、牛島も萩内も同じである。しかし確かに三日後に埋葬されたのであろうか。三日間のいつかに埋葬され、三日後には埋葬されていた、ということにはならないのであろうか。その問いには史実を確認することでしか答えられない。
- 35) なお, Alvar & Pottier (1983: 299) は、古典期のスペイン語で使われている dentro (de) について、*«dentro dos días seríamos a Nápoles»* と *«dentro del término destes veinte días»* という例文をあげて説明している。時間計測の起点(眼前指示と文脈指示)の違いには関心がなく、終端時点が表現されているのであると解釈している。筆者の解釈では、例文の前者は不定名詞句を伴っているので終端時点を指しており(「我々は二日後にナポリについているであろう」)、例文の后者は定名詞(*el término* 「定まっている期間」)を伴っているので期間内を指している(「この20日という期間内に」)と思われる。
- 36) 「モノ」や「モノ化」については、瀬戸賢一(1997: 43–48など)を参照した。
- 37) 未来の期間を意味する不定の数量名詞句がその期間の終端時点を表現する現象は、スペイン語では珍しいことではない。

まず、時点を指す前置詞 *a* による表現があるが、以下の使い方が参考になる。例文 I は宮城など(2001: 1)、II は高垣(2007: 1)のものである。

I. Se celebra la reunión a un mes del inicio de la Cumbre.

「サミット開催を1か月後に控えて会議が行なわれる」

II. A unos días del viaje todavía no tengo nada preparado.

「旅行まで数日なのにまだ何も用意ができていない」

ただし、どちらの例文でも、時間が未来から過去に向かって流れるという眼前指示による期間の提示である。そして発話時は、未来の一時点から計測された期間の終端時点を指している。

また、時間表現の不定名詞句を伴う前置詞 *en* がある。たとえば例文 III のように、

III. Te llamaré en una semana. 「1週間後に電話するよ」

*en* が点的完了相の動詞の文のなかで期間を表わす名詞句を伴って使用されると、その期間の終端時点を指す。

他方、動詞 *hacer* の無人称表現のひとつである時間表現がある。発話時から計測された過去の時間帯を表現する用法である。Bello (1988: nota 104) は、この表現は *hacer* が他動詞として機能するときの *completar* 「完成させる」という意味に由来するとして、*El día de hoy hace cuatro meses que no la*

veo. 「今日は彼女に会わない4ヶ月を完了させる」の hace は completa の意味であるとする。未来から流れてくる時間の一定期間が、発話時に終了する、すなわち完成する、ということであろう。そして NGLE (2009: 24.6a) は、無人称動詞 hacer は計測時間を表現するとして、その2種類の構文を紹介している。副詞的構文で Llegó hace dos días. 「彼は2日前に到着した」のような表現と文的構文で Hace ya dos años que se marchó. 「彼が出かけてもう2年になる」のような表現である。また NGLE (2009: 24.6d) では、[hacer+時間の量的な意味の名詞句] は量的な名詞句であっても点的な意味を表現すると説明し、—¿Cuándo ocurrió?—Hace dos horas. 「それはいつ起こったの?」「2時間前です」の例を出している。そこで、hacer による無人称表現で、時間が未来から過去に向かって流れるという眼前指示の時間表示のとき、文的構文で発話時から過去に向かって計測される量的な時間(期間)を表現しているが、副詞的構文という点的な表現では、その期間の終端時点(発話時から見ると過去の一時点)を指していることになる。期間を指す表現手段がその期間の終端時点を指していることになる。

- 38) なお、未来の一時点を終端時点として示すとき、それはあくまで予定の対象であり、確実な期日ではない。その概略性は、CREA の次の用例からも推測できる。[el estreno que] ofrecerán en el Monumental los próximos días 15 y 16 de este mes; es decir, dentro de una semana justa. 「(その初演は) 今月の15・16日、すなわち、ちょうど1週間後に(彼らが) モヌメンタルで行うであろう」(スペインの新聞 ABC, 08/06/1989)。「ちょうど1週間後」が2日を指している。
- 39) このような dentro de の使い方は、現代スペインのスペイン語にも起こっている。たとえば CREA には、つぎのような用例が含まれている。Le comentó que, si estaba de acuerdo, dentro de una semana exacta, cuando saliese del trabajo le llevaría a su casa el maletín con las cartas. 「彼は相手に伝えた。もし同意するなら、ちょうど1週間後に、仕事から戻るときに手紙の入った手提げ鞆を君の家まで持っていくよ」(Novela de Javier García Sánchez, *La historia más triste*, 1991, Anagrama, Barcelona, pág. 551).
- 40) それに反して、質問の (I) で en を選んだインフォーマントの割合は dentro de よりも大きい。メキシコ 44%, コロンビア 62%, ベネズエラ 58%, ペルー 50%, チリ 100%, ウルグアイ 83% であった。この en の使用については稿を改めて検討してみたい。

#### 参考文献

- 池上嘉彦 (2007) 『日本語と日本語論』, ちくま学芸文庫。  
ズワルト→Zwart。
- 瀬戸賢一 (1995) 『空間のレトリック』, 海鳴社。
- 瀬戸賢一 (1997) 『認識のレトリック』, 海鳴社。
- 高垣敏博 (監修) (2007) 『小学館 西和中辞典 (第2版)』小学館。
- 長縄祐弥 (2013) 「時間を表す前置詞 en と『以内に』にあたる表現」, 2013年8月29日に行われたスペイン語学研究会 (SELE) での口頭発表。
- 二宮哲 (2012), “Dentro de + SN definido o indefinido”, 2012年8月29日に行われたスペイン語学研究会 (SELE) での口頭発表。
- 宮城昇など (編) (2001) 『現代スペイン語辞典 (改訂版)』第3刷, 白水社。
- Alonso, Martín (1958), *Enciclopedia del idioma*, Aguilar, Madrid.
- Alvar, Manuel & Bernard Pottier (1983), *Morfología histórica del español*, Gredos, Madrid.
- Amadís de Gaula*: Garcí Ordóñez o Rdríguez de Montalvo, 1508, edición de Juan Manuel Cacho Blecua, 1991, Cátedra, Madrid.
- Bello, Andrés (1988), *Gramática de la lengua castellana destinada al uso de los americanos con las notas de Rufino José Cuervo*, Arco Libros, Madrid (edición de Ramón Trujillo).
- Butt, J. & C. Benjamin, (2004), *A New Reference Grammar of Modern Spanish*, 4th ed., McGraw-Hill, New York, etc.
- CLAVE: Hernández Hernández, H. (1997), *CLAVE. Diccionario de uso del español actual*, Ediciones SM, Madrid.
- CORDE: Real Academia Española: Banco de datos. Corpus diacrónico del español. <<http://www.rae.es>>, consultado en octubre de 2012.

- CREA: Real Academia Española: Banco de datos. Corpus de referencia del español actual. <<http://www.rae.es>>, consultado en agosto de 2013.
- Cuervo, R. J. (1994), *Diccionario de construcción y régimen de la lengua castellana*, Tomo segundo (C–D), Instituto Caro y Cuervo, Santafé de Bogotá.
- Don Quijote*: Miguel de Cervantes, *El ingenioso hidalgo Don Quijote de la Mancha*, Primera Parte 1605 (第1部) y Segunda Parte 1615 (第2部), edición de Francisco Rico, Instituto Cervantes-Crítica, Barcelona, 1998. 日本語版: 会田由, 晶文社 (第4巻), 1985; 牛島信明, 岩波書店, 1999; 荻内勝之, 新潮社, 2005.
- DRAE: Real Academia Española (2014), *Diccionario de la Lengua Española*, 23.<sup>a</sup> edición, Espasa Libros, Madrid.
- García de Diego, V. (1970), *Gramática histórica española*, Gredos, Madrid.
- García Fernández, Luis (1999), Los complementos adverbiales temporales. La subordinación temporal, en I. Bosque & V. Demonte (ed.), *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa Calpe, Madrid, Capítulo 48, 3129–3208.
- Lorenzo, Emilio (1971), *El español de hoy, lengua en ebullición*, 2.<sup>a</sup> ed., Gredos, Madrid.
- Matte Bon, F. (2005), *Gramática comunicativa del español*, Edelsa, Madrid.
- Miyoshi, Jun-nosuke (1995), Gradación cronológica del *Amadís*, en *Boletín del Instituto Caro y Cuervo. Thesavrus*, tomo V, 467–477.
- NGLE: Real Academia Española y Asociación de Academias de la lengua española (2009), *Nueva Gramática de la lengua española* (Vol. 1: Morfología, Sintaxis; Vol. 2: Sintaxis II), Espasa Libros, Madrid.
- SALAMANCA: Gutiérrez Cuadrado, J. (dir.) (1996), *Diccionario SALAMANCA de la lengua española*, Santillana con Universidad de Salamanca, Madrid.
- Seco Reymundo, Manuel, Olimpia Andrés Puente y Gabino Ramos González (1999), *Diccionario del español actual*, Grupo Santillana de Ediciones, Madrid.
- Zwart, P. J. (1976), *About time*, North-Holland Publishing. 日本語版『時間について』, 井上健・南政次訳, 1980, 紀伊国屋書店。

## On the temporal expressions of Spanish *dentro de*

Jun-nosuke MIYOSHI

### Abstract

The Spanish prepositional phrase of *dentro de* expresses the meaning of ‘within’, accompanied by a nominal complement of spatial notion, and expresses two meanings when accompanied by a nominal complement of temporal notion: ‘period’ and ‘final moment of the period’. As the Spanish adverb *dentro* denotes originally an interior of certain space and its similar notions, we can understand easily that the prepositional phrase *dentro de* expresses the interior of the space identified by the nominal complement. But, why does this phrase express two meanings when it is modified by a nominal complement with a temporal notion? This research is to report our hypothetical solution to this question. We refer to the following points: demonstrative method of the starting point of period (deictic or anaphoric), indication method of the period, indication method of the final moment of period, different usages between the medieval times and the present age, today’s different usages between Spain and Spanish speaking America, etc.

**Keywords:** *dentro de*, period, final moment, demonstrative method, prescriptive grammar